特定非営利活動法人 しがＮＰＯセンター
２０１６年度 事業報告書

２０１６年度事業報告書

概要（Ｐ３）

１　市民活動・ＮＰＯ支援のための情報提供、相談･コンサルティング、マネジメント及び人材育成に関わる事業（Ｐ１）

(1)情報提供
(2)相談･コンサルティング
(3)まちづくりサロン
(4)講座
(5)ＮＰＯ若人エンパワープロジェクト

２　地域コミュニティ支援のための情報提供、相談･コンサルティング、マネジメント・人材育成に関わる事業（Ｐ４）

(1)情報提供
(2)相談・コンサルティング

３　協働推進（Ｐ４）

(1)行政との協働
(2)企業との協働

４　調査研究事業・政策提案（Ｐ８）
(1)コラム発信
(2)地域における豊かな学びの場づくり研究会

５　災害ボランティアコーディネート事業（Ｐ９）
(1)「災害支援市民ネットワークしが」の運営
(2)近畿ろうきんＮＰＯパートナーシップ制度
(3)菜の花プロジェクトネットワークとの連携
(4)災害ボランティア・コーディネーター養成講座
(5)湖南市商工会人権研修
(6)守山市図上訓練アドバイザー業務

6　ネットワークの構築（Ｐ１３）

(1) 近畿ろうきんＮＰＯパートナーシップ制度
(2) ＣＥＯ会議への参加
(3) 中間支援センター意見交換会への参加
(4) 助成財団セミナー＆シンポジウム

7　会議等の開催（Ｐ１４）
(1) 総会
(2) 理事会

２０１６年度　事業報告書

２０１６年4月1日～２０１７年3月３１日

概　　要

今年度は、滋賀のＮＰＯの歴史を振りかえる冊子の発行のために準備作業を行い、発行にこぎつけることとなった。編集を進める中で、今までに滋賀県での市民活動を俯瞰して歴史をたどるような冊子がなかったことを改めて確認し、しがＮＰＯセンターが取り組む意義が大きいと感じられた。「ＮＰＯ若人エンパワープロジェクト」のメンバーなど、若い人たちに過去のことを聞かれることも多く、新たに活動を始める人にとっても新鮮な学びの冊子になるだろう。今回は多くの人に手に取ってもらえることを目的としているため小冊子としてまとめたが、本来はしっかりとした長編の読み物として発行することを考えていきたい。

「ＮＰＯ若人エンパワープロジェクト」は、第２期生として６名の受講生を迎え入れ、2016 年度・2017 年度の２年間で、受講生は講話やワークショップなどを通じて学び、企画事業に取り組んでいくこととなっている。2014 年度・2015 年度の第１期生の活躍を耳にすることも増え、ＮＰＯを担う若手リーダーの行動力や発想に驚きもしながら、プロジェクトの成果が見えてきたのではと感じられる。しかしながら、この事業の費用を寄付で賄うこととしてスタートしたものの、2016 年度も寄付依頼の取り組みは弱く、目標額には達していない。今後は集中的な広報を再び行うとともに、積極的な声掛け、また新たな寄付先の開拓が重要である。

環境助成金事業「夏原グラント」は継続して３年の応募が可能であるが、それを終えた団体を支援する仕組みとしてステップアップ助成がある。助成事業が継続・発展していくための組織基盤強化を目的としたものであり、２団体が採択されている。環境保全活動だけでなく団体の基盤強化に向けた目標を明確にし、目標達成のために、しがＮＰＯセンターが団体に寄り添うことで、はっきりした成果が出てきているところである。また５年が経過した中から成果と課題を整理し、今後の方策について、平和堂財団と選考委員、しがＮＰＯセンターで議論した。そこでは立ち上げ間もない団体や、規模の小さい団体等の活動と組織基盤強化を支援する新たな助成枠組みが提案され、次年度に向けての仕組み構築が進んでいる。

連合愛のカンパの助成で実施した「災害ボランティアコーディネーター養成講座」は、2015 年度に引き続き２回目の実施となった。参加希望者は多く、ニーズの高さを感じられた。受講者間での情報交換やネットワークづくりにも寄与することができ、しがＮＰＯセンターが事務局を担っている「災害支援市民ネットワークしが」への参加を呼びかけたところ多くの参加を得ることとなった。

４月 14 日に発生した熊本地震では、いち早く熊本に駆けつけ現地での支援を行い、近畿の災害支援の仲間とともに現地を訪れるツアーも企画・運営・実施、終了後には報告会を開催した。今回、対応やネットワークの広がりは、東日本大震災時の経験や情報が活きたと感じられた。しがＮＰＯセンターは具体的に災害支援を行う団体ではないが、災害支援市民ネットワークしがの事務局を担い、近畿圏の中間支援に取り組む団体とのネットワークや東日本大震災や熊本地震での現地活動のノウハウなどを活かしながら、「災害」をテーマとした多彩な展開が可能であることが感じられた１年であった。

1　市民活動・ＮＰＯ支援のための情報提供、相談・コンサルティング、マネジメント及び人材育成に関わる事業

(1)情報提供

ホームページ、フェイスブックなどで、ＮＰＯ支援のための情報やＮＰＯコラムを発信した。
会員に向けては。メーリングリストなどで情報提供を行った。

(2)相談・コンサルティング

①相談業務

1時間当たり3,000円（税別、スタッフが出向く場合は交通費別途）

相談件数　4件

・ＮＰＯ法人の立ち上げについて
・認定取得について
・組織内での課題解決について　　など

(3)まちづくりサロン

「新書 de 読書会」

前年度トライアルで実施した読書会を恒例事業として、隔月で実施した。運営方法について試行錯誤を重ねることにより、方向性を見出すことも目的のひとつである。参加者は少ないものの、テーマによって関心を持つ人の参加があった。次年度に向けて、広報の工夫が必要である。

①2016年5月16日（月）19：00～20：30
課題本：つながる図書館　ーコミュニティの核をめざす試み
著者：猪谷千香　　出版：ちくま新書

②2016年6月20日（月）19：00～20：30
課題本：資本主義の終焉と歴史の危機　　著者：水野和夫　　出版：集英社新書

③2016年10月17日（月）19：00～20：30
課題本：来るべき民主主義　　著者：國分功一郎　　出版：幻冬舎新書

④2016年12月19日（月）19：00～20：30
課題本：寺よ、変われ　　著者：高橋卓志　　出版：岩波新書

⑤2017年2月20日（月）19：00～20：30
課題本：自治体崩壊　　著者：田村秀　　出版：イースト新書

(4)講座

①　ＮＰＯに関する講演会

2016年5月22日（土）15：00～16：30　大津市民活動センター
テーマ：ＮＰＯと政治活動について考える
講師：岡本仁宏さん　関西学院大学教授
社会変革のために活動を行うＮＰＯにとって、制度や仕組みに関わる政治と無関係ではいられない。しかし、政治活動といった場合は一定の規制を伴う。ＮＰＯと政治についてどのように考えるか。その基本的な考え方をもとに、活動の展開等について考える場として開催した。

② ＮＰＯ講座

2016年7月18日（月）18：00～20：00　草津市立まちづくりセンター

講師：阿部圭宏　参加者：11名

社会状況や制度が変化していく中で、より有効で社会の変革につなげていく活動とするために、「そもそも」に立ち返って学ぶ場として開催した。

③ 協働講座

2017年3月3日（金）19：00～21：00　草津市立まちづくりセンター

講師：阿部圭宏　参加者：10名

協働が語られるようになり久しいが、どれほど浸透しているのか、効果があったのかなどについては、疑問を呈すところでもある。今一度、行政との協働について考える機会として開催した。

(5)法人設立5周年記念誌（仮称）『滋賀の市民活動史』の作成

しがＮＰＯセンター法人設立5周年にあたり、滋賀の市民活動について全体像を眺めることができる冊子を編集した。

ＮＰＯ若人エンパワープロジェクトや各種講座、また取り組む事業の中で、ＮＰＯや行政職員など、特に若い世代の人たちが滋賀の市民活動について、その流れや果たしてきた役割などをあまり知らないのではと感じられる場面が多かった。そこで、5周年記念誌の発行にあたり、滋賀の市民活動を俯瞰できる簡単な読み物として整理することとした。

印刷、発行は2017年度に実施する。

(6)ＮＰＯ若人エンパワープロジェクト

組織運営においての資源「ひと・もの・かね」のうち、特にＮＰＯにおける若手人材の確保や育成は喫緊の課題となっている。ＮＰＯ若人エンパワープロジェクトは、これからのＮＰＯを担う若手リーダー育成を図ることを目的に、2014年度・2015年度の2年間で、6名の若者を対象として実施してきたプロジェクトである。

第Ⅱ期も実施期間を2年間（2016年度、2017年度）とし、財源としては寄附等を主とし、若手人材育成を希望するＮＰＯを募集し、座学とメンタリングを通じて、若手リーダーを育成することとした。

第１ステップ　受講生を対象とする連続講座

第２ステップ　事業企画をしてもらい助成金を交付

第３ステップ　助成金事業の実施等を通じてメンタリングによる支援

・参加メンバー所属団体

ＮＰＯ法人　しみんふくしの家八日市

ＮＰＯ法人　ＨＣＣグループ

ＮＰＯ法人　さんまクラブ

ＮＰＯ法人　まちづくりネット東近江

認定ＮＰＯ法人　つどい

ＮＰＯ法人　くさつ未来プロジェクト

・実施状況

月 日	内 容	講 師
7/2(土)	NPOの思いから実践へ	伊井野 雄二(赤目の里山を育てる会)
7/18(月	いまさら聞けないNPO	阿部 圭宏(しがNPOセンター)
7/26(火)	NPOの基本	阿部 圭宏(しがNPOセンター)
8/9(火)	NPOの会計・税務	飯野 修(公認会計士・税理士)
8/26 (金)	ビジョンと事業づくり	仲野 優子(しがNPOセンター)
9/7(水)	NPOの労務	山田 真由子(社会保険労務士)
9/24(土)	ボランティア・マネジメント	岡村 こず恵(大阪ボランティア協会)
10/5(水)	「伝えるコツセミナー」	鈴木 契((株)電通関西支社 プランナー) 実吉 威(認定特定非営利活動法人 市民活動センター神戸)
10/19(水)	生まれる・つながる・広がる～事業の展開	藤井 絢子(菜の花プロジェクトネットワーク)
11/9(水)	ファンドレイジング	戸田 由美(認定ファンドレイザー)
11/21(月)	会議の運営ノウハウ WBM	西川 実佐子(しがNPOセンター)
12/6(火)	ICTの活用と情報共有・情報管理	仲野 優子(しがNPOセンター)
12/20(火)	構想力と活動曼荼羅図の描き方	北川 憲司(滋賀地方自治研究センター)
1/16(月)	NPOにとっての事業化	辻川 作男(黒壁)
1/31(火)	NPOのリーダーシップ	井口 貢(同志社大学政策学部)
2/13(火)	課題分析手法	森川 稔(滋賀県立大学客員准教授)
2/28(火)	今までのふりかえり 事業企画に向けた個別ヒアリング	
3/13(月)	事業企画と予算	

2 地域コミュニティ支援のための情報提供、相談・コンサルティング、マネジメント・人材育成に関わる事業

(1)情報提供

地域コミュニティ、特にまちづくり協議会に対する中間支援に必要なメニューをとりまとめ、今後の情報発信のコンテンツとして使えるように整理した。しがＮＰＯセンターのホームページで試験的に情報発信を始めたが、地域によって運営のルールが違うので、一斉の情報発信が各コミュニティに有益かどうかはこれからの検証が必要である。

(2)相談・コンサルティング

協働コーディネーター事業を通して、草津市の「矢倉学区未来のまち協議会」のまちづくり計画の改定作業をサポートした。５回にわたるワークショップによる見直し観点の提示と目標や重点戦略の作成、お

よびまちづくり計画の構成についてアドバイスを行った。地域で計画策定が進められていくためには、道筋をコーディネートできる人材を地域に増やす必要があると感じた。

(3) 竜王町自治会連絡協議会研修会

竜王町では、年2回、まちづくりをテーマとした研修を開催している。今回、事例報告と合わせ、参加者によるグループワークを実施するにあたり、内容の検討と当日の運営・進行を担った。自治会内で、今後の課題について語り合う必要性と、その解決に向けて提案やアイデアを出し合う場づくりについて、各自治会で取り組むためのポイントを伝えた。

3 協働推進

(1) 行政との協働

草津市まちづくり相談窓口設置および協働コーディネート業務（受託事業）

①草津市

・草津市の市民参加・協働事業の評価、および協働提案制度のリニューアルについてのアドバイス

②草津市コミュニティ事業団

・まちづくり協議会向け実務ハンドブック追加作成

活動・事業：　広報と情報伝達、会議の開き方

運営：ＩＣＴ環境を使いこなす

経理：備品の管理、監査の事務

指定管理：地域まちづくりセンターの窓口業務

まちづくり協議会相談対応：　経理・労務・指定管理の個別相談会（税理士・労務士）コーディネート

まちづくり協議会へ出前：　草津市「矢倉学区未来のまち協議会」まちづくり計画の改定作業

「地域における豊かな学びの場づくりの研究会」運営　　全5回　提案書作成

<その他のサポート業務>

コミュニティ事業団

ICT 見本市企画・実施対応　　視察対応　　ＮＰＯ立ち上げ相談　　職員からの相談対応

まちづくり協議会への総務支援ネットワーク、経理支援ソフト導入の構築

草津市役所

生涯学習課　ゆうゆうびと交流会ワークショップ企画実施

草津市職員協働研修　講話とワークショップ

草津市市民提案制度報告会　ワークショップ

(2) 企業との協働

①環境助成金事業「夏原グラント」（受託事業）

2012 年度から実施している助成金事業の5年目として、昨年度同様、募集・選考会運営、実施支援、団体からの相談対応、訪問による活動レポートの作成、交流会の開催、検討会開催、報告書の作成などを行

った。スタッフが取材を行った活動レポートは、夏原グラントのサイトにて情報発信を行った。

ⅰ　募集受付および選考会

・新規団体　１６団体　　助成金総額　４，４５７，０００円
・継続２年目団体　１６団体　　助成金総額　４，９３０，０００円
・継続３年目団体　１３団体　　助成金総額　３，５８０，０００円
・ステップアップ助成　２団体　　助成金額　１，０００，０００円
計　４７団体　　１３，９６７，０００円

選考会は新規１次選考のみ非公開の書類選考、新規２次・継続２年目は公開プレゼンテーション&選考会、継続３年目とステップアップ助成については、選考会で採否を決定した。

2016年度の助成金対象団体数と助成総額は以下のとおりである。

新規団体	事業名	助成額
特定非営利活動法人　家棟川流域観光船	家棟川の生態回廊の再生―ビワマスの遡上する川をつくる	400,000
湖国ひとまちネット	北近江びわこ見守り隊	150,000
特定非営利活動法人 子どもと川とまちのフォーラム	水遊び体験を取り戻す　―子どもは川の子プロジェクト―	400,000
特定非営利活動法人　高島トレイルクラブ	中央分水嶺水源林再生事業	400,000
特定非営利活動法人　麻生里山センター	森と山の塾2016	157,000
やす緑のひろば	野洲川北流跡自然の森創生プロジェクト	300,000
蒲生地区まちづくり協議会	ふるさと蒲生野川づくり事業	200,000
エコパートナーシップうじたわら	協働によるふるさとの自然環境保全を図るための基礎資料調査	100,000
特定非営利活動法人 里山保全活動団体　遊林会	Re　梵（リボーン）大作戦　～梵釈寺から始まる里山の再生～	350,000
びわ地域づくり協議会	竹生島タブノキ保全プロジェクト	200,000
特定非営利活動法人　社叢学会	伏見稲荷大社　理想の森づくり	300,000
鹿背山元気プロジェクト	21世紀の「鹿背山ものがたり」をつくろう～里山と都市の好循環を目指して	250,000
古橋のオオサンショウウオを守る会	大谷川周辺に生息するオオサンショウウオの生態系保全活動	500,000
長岡京竹あそび連絡協議会	放置竹林問題啓発活動	200,000
近江・里山の自然と文化財を学ぶ会	ウィングプラザ（長浜市・米原市）一般廃棄物最終処分場周辺の環境・動植物・文化財・里山（びわ湖の水源森林）の保全活動	350,000
認定特定非営利活動法人　ＮＰＯぽぽハウス	障害児童が体験・講座を通して「野菜・植物の育成」の学び&ふれあい事業	200,000

継続２年目団体	事業名	助成額
近江八幡市　豊かな杜づくり隊	日本百名城「観音寺城石垣」整備プロジェクト	270,000
特定非営利活動法人　オーガニック土の塾	遊休・休耕農地や放置森林等の再生・管理事業	400,000
白鳥川の景観を良くする会	白鳥川流域の生物多様性と好循環社会へのモデル取組	270,000

京おとくに・街おこしネットワーク	西山古道の自然環境保全に関する実践活動	350,000
滋賀大学「環境学習支援士」会	未来のびわ湖人育成のための学習支援事業	350,000
八幡市里山再生協議会	三川合流地点（木津川・宇治川・桂川）八幡市男山展望台周辺の環境整備事業	490,000
一般財団法人　湖北水源の郷づくり	余呉湖周辺の保全・緑化の推進	300,000
特定非営利活動法人　ビオトープネットワーク京都	鴨川生き物調査	250,000
一般社団法人　比良里山クラブ	びわ湖流域赤シソ栽培ネットワーキング事業　"Team Hira Perilla"	350,000
ぼてじゃこトラスト	ぼてじゃこトラスト人材育成事業	400,000
びわ湖りす森倶楽部	未来に続く　生物多様性の森　育成事業	350,000
NPO法人　京都・森と住まい百年の会	森林・林業の多角的な体験・学習を通じた人材育成	200,000
里山的暮らし　ECO TASK TEAM	里山　いきものがたり	300,000
総山管理委員会	里山保全・整備活動	200,000
松尾寺山登山道保存会	松尾寺山の里山整備活用事業	300,000
龍谷大学　北船路米づくり研究会	低農薬・無農薬野菜と環境こだわり米による地産地消の仕組みづくり	150,000

継続3年目団体	事　業　名	助成額
竜王清流会	河川環境美化作戦	150,000
番場の歴史を知り明日を考える会	中世城跡（鎌刃城）から里山再生	350,000
金田学区まちづくり協議会	平和川・黒橋川をきれいにする事業	200,000
街中美化運動はなのみち	街中美化運動はなのみち	100,000
伊吹山ネイチャーネットワーク	伊吹山自然再生・保全事業	500,000
特定非営利活動法人 プロジェクト保津川	いかだにのってみよう　～山・川・まちのつながりの再生～	250,000
特定非営利活動法人　おとくにパオ	はれぜの森の再生と涵養　～カブトムシの棲む森へ	280,000
熊野・棚田を育てる会	棚田保全ボランティア活動	300,000
NPO法人　菜の花プロジェクトネットワーク	BDFをつくる・楽しむ・広げる　プロジェクト	300,000
甲賀木の駅プロジェクト運営委員会	軽トラとチェーンソーで山を元気に！町を元気に！！	400,000
ＮＰＯ法人　国際ボランティア学生協会　IVUSA	大学生の力で外来水生植物から琵琶湖を取り戻そう	250,000
古屋集落自主応援組織「古屋でがんばろう会」	水源の里「古屋」の宝物再発見	300,000
ＮＰＯ法人 絵本による街づくりの会	里山体験隊２０１６	200,000

ステップアップ助成団体	事　業　名	助成額
1年目：山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会	山門水源の森の生物多様性保全と獣害対策	500,000
2年目：一般社団法人　kikito	びわ湖の森の間伐材買取事業	500,000

ii　交流会

2014年度、2015年度は採択年数別の交流会であったが、2016年度は採択団体が一堂に会する交流会として開催した。また、採択団体外からの参加もあり、多彩な顔ぶれとなった。選考委員からのリレートークとグループに分かれての意見交換を行った。テーブルに分かれて選考委員も加わり、当センターの理事がテーブル進行役を務めた。団体間での意見交換だけではなく、アドバイスや提案なども出された活発な意見交換の場となった。

また会場には、当日欠席の団体も参加できる団体ごとの展示コーナーを設け、情報交換の場とした。

応募に関する相談会も同時に開催した。

夏原グラント交流会　　2016年12月4日（日）

参加：36団体　57名

展示のみ参加：10団体

iii　環境講座

環境保全活動を進めていくための専門的な知識や実践活動につなげていく手法などについて考える「理論」と「実践」についての講座を開催した。選考委員からの推薦いただき、講師を依頼した。

第1回　2016年8月30日　19:00～20：30

「生態系にやさしい保全活動とは」

講師：西野麻知子さん　びわこ成蹊スポーツ大学教授

参加者：23名

第2回　2016年9月6日　19:00～20：30

「生まれる、つながる、広がる　～菜の花プロジェクトの活動を通して～」

講師：藤井絢子さん　ＮＰＯ法人菜の花プロジェクトネットワーク代表

参加者：12名

iv　検討会

夏原グラントは、2012年度の選考から数え5回の選考を終えたこととなる。この間、修正や新たな試みを加えながら実施してきたが、制度や実施状況をふりかえりながら今後について議論することとなった。選考委員からは、応募書類の工夫、対象団体・対象事業の拡大、あらたな助成枠の創設、団体間の交流方法などについての意見・アイデアが出された。ここで出された内容については、2017年度の募集等で対応した。

開催日：2016年9月2日（金）

v　事前相談会

夏原グラントへの応募を考えている団体を対象に実施しているもので、説明会終了後に設定するとともに夏原グラント交流会でも実施した。応募を考えている団体のみではなく、次年度継続応募を希望している団体の相談にも対応した。

- 木津川会場　　2016年11月26日　　参加：1団体
- 草津会場　　2016年11月28日　　参加：4団体
- 守山会場　　2016年11月29日　　参加：1団体
- 京都会場　　2016年12月2日　　参加：3団体
- 宇治会場　　2016年12月10日　　参加：1団体
- 長浜会場　　2016年12月11日　　参加：4団体

vi　報告書

事業報告書として、Ａ４サイズで作成。１事業あたりＡ４サイズの 1/3 スペースで、すべての事業を掲載している。当初より作成部数を増やし、広報ツールや応募を検討している団体などへの情報提供用として積極的に配布した。

vii　店舗用冊子

環境保全活動に関心のある層だけではなく、その他多くの人に知ってもらうための広報ツールとして、2014 年度から作成しているＡ５サイズの冊子。平和堂の大型店舗に設置する冊子で、イラストなどをふんだんに使い、手に取りやすく、内容も平易な文章で作成した。

平和堂大型店舗 20 店に 100 部ずつ配布し、カウンターなどに設置していただいた。

viii　5 周年記念パンフレットの作成

夏原グラントは 2011 年度に助成が始まり、2016 年度は 5 周年に当たる年でもあった。

平和堂財団や選考委員との協議を重ねながら改善に向けて取り組んできたが、その経過と成果を取りまとめるものとして記念パンフレットを作成した。開始当初に比べると、認知度はたかまってきてはいるものの、まだまだ必要なところへ情報が届けられているとは限らない。この記念パンフレットを広報ツールとしても活用していことで認知度を高め、環境保全活動の裾野拡大を目指している。

印刷、発行は次年度実施する。

4　調査研究事業・政策提案

(1) コラム発信

2013 年 6 月より、ＮＰＯを取り巻く環境や課題、また時々の社会的な問題などについて、ＨＰサイトでコラムとして発信している。2016 年度は 1 か月に 1 回計 12 回リリースした。

(2) 「地域における豊かな学びの場づくりの研究会」

草津市で 2017 年 4 月より導入される「地域まちづくりセンター」の指定管理者制度導入を踏まえ、地域の課題やニーズに対応するための学びのプログラムや機会づくりに関する支援策を検討した。草津市では地域まちづくりセンター条例の中で、センターの社会教育施設としての機能（公民館機能）を廃止し、コミュニティ施設と位置づけて、地域拠点としての活動の場を重視している。指定管理の仕様書の中には、「地域における豊かな学び」の提供は書かれているが、講座の内容には言及されず地域では何をしていいのかという声が聞かれていた。特に、草津市においては生涯学習自体のあり方の議論がされていないため、地域まちづくりセンターで趣味・教養の講座や団体が増えることに危機感を持っていた。草津市の教育推進計画では、生涯学習は学んだことを地域づくりに生かすと書かれているが、具体的な指針や方向性がなく地域には浸透していない。このテーマは、まちづくり協働課と生涯学習課、そして地域にまたがる課題でもあるので、各課およびセンター及び学識者を研究会の構成メンバーとした。

「地域生涯学習」機能と、まち協の人材育成事業を兼ね合わせた、具体的なプログラムと支援のしくみを報告書にまとめた。その中で、地域づくりにとって、学びは活動の原動力であることが確認された。

	日時	議論の内容
第1回	6月27日（月）	・草津市の社会教育・生涯学習と協働のまちづくりに関する経緯 ・地域における学び（地域生涯学習）について、全国の動向と課題
第2回	7月28日（木）	・草津市の生涯学習講座（広域・地域）の実態検証と課題の洗い出し
第3回	9月2日（金）	・「地域の学び」講座の実施に関するハードルと、地域（まちづくり協議会や地域住民・団体）の実情
第4回	11月10日（木）	・「豊かな学び」実現に向けたハードルの乗り越え方 ・まちづくり協議会への支援について
第5回	1月20日（金）	・学びのプラットフォーム（支援体制）について ・学びのプログラムの提示と、実現可能性の検討

5　災害ボランティアコーディネート事業

(1)「災害支援市民ネットワークしが」の運営

①「災害支援市民ネットワークしが」

2011・2012年度の新しい公共支援事業「滋賀ＮＰＯ災害ボランティアネットワーク構築事業」の取り組みを引き継ぎ、2013年度よりしがＮＰＯセンターが事務局を担っている。県内外での発災時に、災害ボランティアセンター運営支援やコーディネート、情報発信などができることを目指し、平常時には学習や交流の機会を設けて、スキルアップと加盟団体・個人との連携維持・強化、また新たな連携先の掘り起しを図ることを目的としている。会員組織としてはいるが会費は設定せず、オブザーバーとしての参画もあり、また研究会・セミナー等への参加は会員外にも声をかけるオープンな形態としている。災害ボランティアコーディネーター養成講座の修了者のうち希望者が会員登録することにより、参加者が増加している。現在会員は43名（団体）となっている。

総会開催　2016年4月27日（水）13：30～14：00
　　場所　滋賀県危機管理センター

②研究会の開催

2016年4月14日に熊本大地震が発生し、その支援を近畿ろうきんＮＰＯパートナーシップ制度の事業で取り組むこととなった。総会時には危機管理センターの見学を実施し、その他予定通りに2回の研究会を開催した。それぞれのテーマに対して関心が高く、参加者の満足度も高かった。

・危機管理センター見学
　2016年4月27日（水）14：00～15：00

・第1回研究会
　2016年4月27日（水）15：00～16：30　　参加者数　18人
　「発災時の災害ボランティアセンターの運営シミュレーション研修」
　講師：浅田かず子さん（長浜市社会福祉協議会　地域福祉課ボランティア担当リーダー）
　参加者が災害ボランティアセンターでコーディネーターの立場として、どのようなことがあるかを実体験した。ボランティアに来てほしいと望む人からの聞き取りでニーズを把握して必要人数や内容を書きこんだ紹介表を作成するなど、マッチングに関しての具体的な研修を行った。参加者はみな真剣に取り組んでいた。

・第２回研究会

2017年2月8日（水）14：00～16：30　　参加者数　25人

「今、子どもたちにどんな防災教育が必要なのか？」

講師：河田のどかさん（NPO法人さくらネット）

防災への意識向上には、大人だけではなく子どもの参加があってこそである。防災教育を教育の場で取り入れる学校もあるが、まだまだ数は少ない。年齢・学年に応じた内容や指導方法についてのノウハウやスキルの共有も進んでいない。また重要とされる地域との連携も手探り状態である。自身が被災されたことから防災教育の重要性を感じ、取り組んでこられた講師ならではの事例や指摘に、参加者一同、うなずくばかりであった。

・上記主催事業のほか、「災害支援市民ネットワークしが」として、「滋賀県災害ボランティアセンター運営協議会」委員会議へ出席し、滋賀県総合防災訓練へ参加した。

(2) 近畿ろうきんＮＰＯパートナーシップ制度

①みなみ阿蘇福祉救援ボランティアネットワークの支援活動

災害発生後、避難するしないにかかわらず被災地での生活は激変するが、高齢者や障害のある方など支援が必要な人にとってその状況は非常に厳しいものとなる。2016年4月に発生した熊本地震で、支援する側を支える仕組みとして、4月末からＮＰＯ法人さくらネット（西宮市）がみなみ阿蘇福祉救援ボランティアネットワークを立ち上げた。これは南阿蘇ケアサービス、兵庫県移送サービスネットワーク、東海福祉移動研究会などと協力しながら、介護職・看護職のボランティアを南阿蘇村の９つの福祉事業所に派遣する仕組みである。しがＮＰＯセンターは以前からさくらネットと協力関係にあることから、メンバーが継続的に南阿蘇村に出かけ、みなみ阿蘇福祉救援ボランティアネットワークの活動を支援した。

実施時期　①5月29日～6月3日　2名派遣　　4日間活動

②7月12日～7月16日　1名派遣　　3日間活動

②みなみ阿蘇福祉救援ボランティアネットワーク活動報告会

災害発災時、必要な支援として災害ボランティアセンターの設置や、そこでのボランティアコーディネーターなどの活動については、一定の共通認識が高まってきている。しかし、個別に対応しなくてはならない課題は山積で、特に高齢者や障害のある人にどのような支援をすべきかについて議論が高まってきている。こういった課題を解決するために立ち上がった「みなみ阿蘇村福祉救援ボランティアネットワーク」の活動について、ネットワーク立ち上げの中心的な動きをしてきたＮＰＯ法人さくらネットの理事である後藤至功さん（佛教大学福祉教育開発センター実習指導講師）を招いて、報告会を開催した。

同時に、近畿ろうきんＮＰＯパートナーシップ制度実施した熊本支援共通企画「ボランティア活動＆訪問ツアー」参加者の報告も行った。

2016年10月4日（火）14：00～16：30　草津市立まちづくりセンター　参加者数　36人

・みなみ阿蘇福祉救援ボランティアネットワーク活動報告

講師：後藤至功さん　佛教大学福祉教育開発センター実習指導講師

・ボランティア活動＆訪問ツアーに参加して

報告者：藤澤聡さん　認定特定非営利活動法人ＮＰＯぽぽハウス

池本悠子さん　特定非営利活動法人ＨＣＣグループ

井出のり子さん　滋賀県労働者福祉協議会

近畿ろうきんＮＰＯパートナーシップ制度

近畿ろうきんが2000年度から始めた近畿2府4県内でのＮＰＯ・ボランティア活動を促すための制度。

2011年度からは東北地方を中心とした被災地での復興支援活動に力を入れていたものの、年月が経過する中現地支援からは軸足が遠のいていた。しかしながら2016年4月に発生した熊本地震を機に、現地支援の必要性から再度復興支援活動に取り組むこととなった。

③共通企画

近畿2府4県のＮＰＯ支援センターが共同で事業に取り組むもの。2016年度は「熊本　ボランティア活動＆訪問ツアー」と「熊本地震シンポジウム」を実施した。

・熊本　ボランティア活動＆訪問ツアー

近畿圏のＮＰＯ支援センターや市民団体と連携し、関西の地からできる熊本地震の復興支援に取り組むとともに、関西での震災への備えとなる防災・減災の対応につなげることを目的に実施した。「高齢者支援」「障がい者支援」「こども支援」等にかかわるＮＰＯ等の支援関係者を対象に、熊本地震の支援活動と現地視察で、今後の取り組みに活かすことが期待されている。

日程：9月16日(金)夜出発～9月19日（月）朝着

活動場所：熊本市・益城町・西原村

滋賀からは当センターより阿部、他4名の計5名参加

・熊本地震シンポジウム

「熊本　ボランティア活動＆訪問ツアー」で訪れた現地活動団体のメンバー3 名を招き、話題提供をお願いした。後半はグループに分かれ、「支援団体が備えておくべきこと」「できること」「課題となること」についてディスカッションした。

2017年1月23日（月）13：30～17：00　近畿ろうきん肥後橋ビル

事例報告者：寺本わかばさん　わかばMeeting代表

上村加代子さん　特定非営利活動法人にしはらたんぽぽハウス代表

木村由美子さん　特定非営利活動法人子育て応援「おおきな木」代表

(3)菜の花プロジェクトネットワークとの連携

2011年度から継続して実施している東日本大震災で被災した地域で菜の花の種蒔きを実施するボランティアバスの運営を、2016年度はＮＰＯ法人菜の花プロジェクトネットワークが日本郵便からの助成金を受けて実施することとなり、ＮＰＯ法人菜の花プロジェクトネットワークと連携しながら、運営実施に協力した。

今回も南相馬市と須賀川市で、それぞれの地域で参加者との交流を深めながら菜の花の種蒔きボランティアを行った。毎年、刈り取りと種蒔時期や刻々と変わる現地の天候とそれに伴う作業の進捗状況に応じ、最善を選択しての取り組みである。このボランティアでの種蒔きだけではなく総計としてみた場合でも、南相馬市・須賀川市での菜の花種蒔面積が増えている。来年度4月には、南相馬市で菜の花サミットが開催されるとのこと、継続してきた取り組みの成果が発表される機会となる。

2016年9月9日～12日　　参加者：20名

・南相馬市　南相馬農地再生協議会が主催する菜の花の種蒔きイベントに参加、地元の方々と交流

・須賀川市　市内圃場での菜の花の種蒔き実施、地元の方々との交流

(4) 災害ボランティアコーディネーター養成講座

2015年度に実施した「災害ボランティアコーディネーター養成講座」が定員を上回る申し込みがあり、キャンセル待ちもあったことから、ニーズの高さが感じられる取り組みであり、2016年度についても、日本労働組合連合会主催の「連合・愛のカンパ」での地域助成により実施した。ほぼ2015年度と同じメニューではあったが、2016年4月に熊本地震が発災したことなどもあり、参加者の意識の高さが感じられた。全7回の講座で6回以上出席の参加者には、修了証書を渡した。

今回は前年度受講生から希望を募り、ボランティアスタッフ4名が運営に当たった。会場設営、受付補助、グループワークではテーブルに入ってのアドバイスなど、大きな役割を果たしていただいた。

参加者数　34人

<全7回のスケジュール>

回	開催日	内　　容	講　師
1	4月23日	災害ボランティアコーディネーターの役割（講義1）	阿部圭宏
2	5月10日	防災ゲーム　クロスロード（ワークショップ1）	西川実佐子
3	5月24日	災害ボランティアセンターの運営と生活支援（講義2）	谷口郁美さん
4	6月7日	ニーズ把握とボランティアマッチング（ワークショップ2）	井岡仁志さん
5	6月21日	建築物の構造の見方から学ぶ災害支援活動（講義3）	中村正則さん
6	7月5日	メンバー間の連携方策を考える（ワークショップ3）	仲野優子
7	7月23日	ふりかえりと今後に向けて（ワークショップ4）	石井布紀子さん

第1回目は、熊本地震の発生により、講師予定の石井布紀子さん（ＮＰＯ法人さくらネット）が現地での支援に入っていたため、急遽当センターの阿部圭宏が担当した。

次年度は連続3回目となる災害ボランティアコーディネーター養成講座について「連合・愛のカンパ」地域助成で実施することとなっている。この3回目が助成最後となることから、関心のある方へ情報提供をどのように進めていくかが課題である。

(5) 湖南市商工会人権研修

湖南市商工会より、人権研修を防災をテーマとして実施したいとの相談があり、当センターのメンバーが講師として対応することとなった。2015年度に実施した「災害ボランティアコーディネーター養成講座」受講者が、「防災と人権」をテーマに実施してはどうかとの意見を湖南市商工会に持ちかけたとのことである。

災害発生時には日常の諸課題が表になって出てくるとの指摘の中、人権と災害について学ぶ場は今後も必要であり、ニーズも高いのではないかと考えられる。今回の研修をきっかけとして、新たな展開の可能性を探ることができるものであった。

2017年1月27日（水）15：00～16：30　湖南市商工会

講師：阿部圭宏

参加者数：25人

(6) 守山市図上訓練アドバイザー業務

守山市の依頼を受け、避難所運営マニュアル、福祉避難所運営マニュアル見直しのために行う図上訓練のアドバイスを行った。

具体的には、現在のマニュアルを見ながら、守山市中洲学区での住民の協力を得て、図上訓練を行い、そ

の結果をマニュアル改訂に生かした。

6　ネットワークの構築

(1) 近畿ろうきんＮＰＯパートナーシップ制度

「近畿圏ＮＰＯ支援センター連絡会議」に出席

2016年5月20日、2016年7月25日、2016年9月12日、2016年10月14日、2017年1月13日

(2) ＣＥＯ会議への参加

全国の民間のＮＰＯセンターが集まるＣＥＯ会議へ参加した。

①2016年4月21～22日

ＮＰＯ法人制度の改正に向けた情報共有、ＮＰＯ支援センターの役割について　ほか

②2016年8月18～19日

ＮＰＯ関連法制度の改正とその後について、ＮＰＯの事業評価に関する最近の動き　ほか

また、日本ＮＰＯセンターが主催する「市民セクター全国会議」に出席した

2016年11月23日（祝）10：00～17：30　聖心女子大学

(3) 中間支援センター意見交換会への参加

県内の中間支援団体で組織する意見交換会に参加した。

2016年度は、淡海ネットワークセンター、たかしま市民協働交流センターとともに世話役として、全体のスケジュール調整、意見交換会のテーマ設定、当日の準備・運営などを担った。

① 2016年6月10日　中間支援の役割とは

② 2016年8月29日　市民活動支援センターの地域組織支援について

③ 2016年12月15日　会議の運営スキル　ホワイトボード・ミーティング®

来年度の世話役は、野洲市市民活動支援センター、ながはま市民活動センター、淡海ネットワークセンターとなった。

(4) 助成財団セミナー＆シンポジウム in 京滋奈

①助成団体担当者のための実務セミナー

助成財団センター及び京滋奈連携実行委員会の主催による標記セミナーの実行委員会に参加して、準備・運営を担った。

日時：2016年11月18日（金）14:00～17:00

会場：ひとまち交流館

講師：渡辺　元さん（助成財団センター事務局長）

参加者：30名

②助成財団シンポジウム in 京滋奈

ＮＰＯ支援財団研究会及び京滋奈連携実行委員会の主催によるシンポジウムの実行委員会に参加して、準備・運営を担った。

日時：2016年11月19日（土）12：45～17：30　　参加者：90名

会場：ひとまち交流館

内容：基調講演「助成金の基礎を知る」松原明さん（シーズ理事）

事例報告　奈良事例　助成側：奈良県

助成受領側：宇陀松山華小路実行委員会

滋賀事例　助成側：平和堂財団夏原グラント

助成受領側：一般社団法人 kikito

全国事例　助成側：公益財団法人 三菱財団

助成受領側：同志社大学社会学部

滋賀の縁創造実践センター

意見交換会、名刺交換会

(5) 所轄庁近畿ブロック担当者と会計基準協議会との意見交換会

所轄庁近畿ブロック担当者会議が大阪で開催され、その後１時間をもらって、会計基準協議会メンバーとの意見交換会が行われ、２名参加した。

開催日：2016 年 10 月 26 日（水）16:00～17:00

同日 15:00～16:00 に協議会メンバーで事前打ち合わせ

会場：ドーンセンター

7　会議等の開催

(1) 総会

2016 年 5 月 22 日（土）14：00～15：00　大津市民活動センター

終了後、講演会を開催　　15：00～16：30

テーマ：ＮＰＯと政治活動について考える

講師：岡本仁宏さん　関西学院大学教授

(2) 理事会

第 21 回　　2016 年 5 月 13 日（水）

第 22 回　　2016 年 8 月 3 日（水）

第 23 回　　2016 年 12 月 5 日（月）

第 24 回　　2017 年 3 月 24 日（金）

＊新年理事懇談会　　2017 年 1 月 7 日（土）

第６期

決 算 報 告 書

自：2016年 4月 1日
至：2017年 3月31日

〒523-0893
滋賀県近江八幡市桜宮町207番地の3

特定非営利活動法人しがＮＰＯセンター

代表理事　阿部　圭宏

２０１６年度
活動計算書

２０１６年4月１日から２０１７年3月３１日まで

特定非営利活動法人 しがＮＰＯセンター

（単位：円）

科目	金額		
Ⅰ 経常収益			
1 受取会費			
受取会費		241,000	
2 受取寄付金			
受取寄付金		501,210	
3 事業収益			
事業収益		9,065,380	
受取助成金		630,000	
受取寄付金		1,877,274	
4 その他収益			
受取利息		79	
経常収益 計			12,314,943
Ⅱ 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	1,947,720		
臨時雇賃金	62,760		
福利厚生費	308,140		
人件費 計	2,318,620		
(2) その他経費			
旅費交通費	610,759		
通信運搬費	278,735		
消耗品費	182,051		
修繕費	15,590		
印刷製本費	535,383		
諸謝金	1,565,667		
租税公課	10,400		
寄付金支出	301,259		
委託費	2,645,000		
会議費	417,423		
会場費	984,296		
雑費	44,634		
その他経費 計	7,591,197		
事業費 計		9,909,817	
2 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	800,340		
人件費 計	800,340		
(2) その他経費			
旅費交通費	130,570		
通信運搬費	156,508		
消耗品費	168,187		
修繕費	9,720		
印刷製本費	8,328		
会場費	11,560		
光熱水料費	143,134		
賃借料	420,000		
諸会費	40,000		
会議費	20,000		
支払報酬	540,000		
雑費	70,498		
その他経費 計	1,718,505		
管理費 計		2,518,845	
経常費用 計			12,428,662
当期経常増減額			-113,719
税引前当期正味財産増減額			-113,719
法人税、住民税及び事業税			72,200
当期正味財産増減額			-185,919
前期繰越正味財産額			2,593,288
次期繰越正味財産額			2,407,369

２０１６年度
貸借対照表
２０１７年3月３１日現在

特定非営利活動法人 しがＮＰＯセンター
（単位：円）

科目	金額		
Ⅰ 資産の部			
1 流動資産			
現金	104,012		
普通預金	2,443,109		
未収入金	167,400		
前払費用	104,980		
若手人材育成・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ	1,200,000		
事業特定資産			
流動資産合計		4,019,501	
資産合計			4,019,501
Ⅱ 負債の部			
1 流動負債			
未払金	1,095,782		
前受金	438,000		
預り金	6,150		
未払法人税等	72,200		
流動負債合計		1,612,132	
負債合計			1,612,132
Ⅲ 正味財産の部			
前期繰越正味財産		2,593,288	
当期正味財産増加額		-185,919	
正味財産合計			2,407,369
負債及び正味財産合計			4,019,501

２０１６年度
財産目録
２０１７年3月３１日現在

特定非営利活動法人 しがＮＰＯセンター
（単位：円）

科 目・摘 要	金 額		
Ⅰ 資産の部			
1 流動資産			
現金	104,012		
普通預金			
滋賀銀行本店	1,234,790		
大阪貯金事務センター	385,479		
近畿労働金庫	822,840		
未収入金			
(公財)草津市コミュニティ事業団	167,400		
前払金			
翌期事業諸経費	104,980		
特定資産			
滋賀銀行本店	1,200,000		
流動資産合計		4,019,501	
資産合計			4,019,501
Ⅱ 負債の部			
1 流動負債			
未払金			
諸謝金 5件	560,520		
業務委託費 5件	257,760		
未払給与 3件	230,480		
法定福利費 1件	24,121		
消耗品費 1件	12,579		
旅費交通費 7件	5,320		
運賃 1件	5,002		
前受金			
翌期事業助成金 1件	400,000		
翌期分会費 7件	38,000		
預り金			
給与源泉所得税預り金	6,150		
未払法人税等			
未払県民税	22,200		
未払市民税	50,000		
正味財産			2,407,369

財務諸表の注記

1．重要な会計方針
財務諸表の作成は、ＮＰＯ法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 ＮＰＯ法人会計基準協議会）によっています。
(1)消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は税込経理方式によっています。

2．事業別損益の状況
事業別損益の状況は別紙の通りです。

3．使途等が制約された寄付等の内訳
使途等が制約された寄付等の内訳は以下の通りです。
当法人の正味財産は2,407,369円ですが、そのうち1,200,000円は若手人材育成事業及び災害ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ事業に使用する資産として使途を特定しております。
したがって使途が特定されていない正味財産は1,207,369円です。

(単位:円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
市民活動・NPO支援事業	0	41,000	41,000	0	
災害VC事業	0	336,274	336,274	0	うち、301,259円は熊本地震の災害支援募金として寄付を募り、(福)中央共同募金会に寄付した。
近畿ろうきん助成金	0	200,000	200,000	0	
連合愛のカンパ助成金	0	400,000	400,000	0	前期に前受金とした助成金400,000円を当期の事業に使用した。 また、当期に入金された400,000円は翌期の実施予定事業のため前受金として負債に計上した。
ろうきん共通企画助成金(わかやまNPOｾﾝﾀｰ)	0	30,000	30,000	0	
若手人材育成事業・災害ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ事業	1,500,000	0	300,000	1,200,000	前期から繰り越した金額のうち、当期の若手人材育成事業に300,000円を使用した。残額は翌期以降の事業用資金として繰り越す。
合計	1,500,000	1,007,274	1,307,274	1,200,000	

4．役員及びその近親者との取引の内容
役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

(単位:円)

科目	財務諸表に計上された金額	左の内役員及び近親者等の取引
(活動計算書)		
経常収益/受取寄付金	1,701,210	2,055,000
事業収益/受取寄付金	677,274	
事業費/委託費	2,645,000	2,296,000

別紙

２０１６年度事業別損益の状況«2016年4月～2017年3月分»

特定非営利活動法人 しがＮＰＯセンター

(単位：円)

科目	市民活動・NPO支援事業	地域コミュニティ支援事業	草津市協働コーディネーター	夏原グラント	災害VC事業	事業部門 計	管理部門	合計
Ⅰ経常収益								
受取会費							241,000	241,000
受取寄付金							2,001,210	2,001,210
受取一般寄付金から個別事業収益への振替額							△ 1,500,000	△ 1,500,000
受取利息							79	79
事業収益	1,584,460	10,000	2,000,000	6,600,000	1,378,194	11,572,654	0	11,572,654
事業収益	43,460	10,000	2,000,000	6,600,000	411,920	9,065,380		
受取助成金	0	0	0	0	630,000	630,000		
受取寄付金	41,000	0	0	0	336,274	377,274		
受取一般寄付金から個別事業収益への振受額	1,500,000					1,500,000		
経常収益 計	1,584,460	10,000	2,000,000	6,600,000	1,378,194	11,572,654	742,289	12,314,943
Ⅱ経常費用								
(1)人件費								
人件費	176,400	0	62,700	1,785,370	294,150	2,318,620	800,340	3,118,960
(2)その他経費								
旅費交通費	167,333	660	36,870	126,170	279,726	610,759	130,570	741,329
通信運搬費	41,756	0	0	176,080	60,899	278,735	156,508	435,243
消耗品費	2,975	0	11,165	124,464	43,447	182,051	168,187	350,238
修繕費	0	0	0	0	15,590	15,590	9,720	25,310
印刷製本費	12,147	0	34,300	473,147	15,789	535,383	8,328	543,711
賃借料	0	0	0	0	0	0	420,000	420,000
諸謝金	207,533	0	119,814	949,320	289,000	1,565,667	0	1,565,667
租税公課	0	0	400	10,000	0	10,400	0	10,400
業務委託費	1,030,000	0	1,335,000	240,000	40,000	2,645,000	0	2,645,000
会議費	2,500	0	0	409,723	5,200	417,423	20,000	437,423
支払寄付金	0	0	0	0	301,259	301,259	0	301,259
会場費	55,710	0	0	888,366	40,220	984,296	11,560	995,856
光熱水料費	0	0	0	0	0	0	143,134	143,134
諸会費	0	0	0	0	0	0	40,000	40,000
支払報酬	0	0	0	0	0	0	540,000	540,000
雑費	21,728	0	972	19,450	2,484	44,634	70,498	115,132
その他経費 計	1,541,682	660	1,538,521	3,416,720	1,093,614	7,591,197	1,718,505	9,309,702
前払金振替	0	0	0	0	0	0		0
経常費用 計	1,718,082	660	1,601,221	5,202,090	1,387,764	9,909,817	2,518,845	12,428,662
当期経常増減額	△ 133,622	9,340	398,779	1,397,910	△ 9,570	1,662,837	△ 1,776,556	△ 113,719